

平成22年度 事業報告

1. 公益財団法人日本センチュリー交響楽団へ移行

平成元年5月 大阪府により設立された当財団は、芸術、文化の振興を図り、ゆとりとうるおいに満ち、個性的で創造性に富んだ国際文化都市おおさかづくりに寄与するため、爾来22年にわたり、運営する「大阪センチュリー交響楽団」の演奏による音楽文化の振興を中心として、多彩な文化、芸術事業を展開してきたところである。

大阪センチュリー交響楽団は、20周年を迎えた平成21年12月、演奏技術と表現力のさらなる飛躍を目指して、《新しい発展を目指して—20周年を迎えての新たな決意》のもとに、「大阪力・発信」、「感動・癒し」、「発掘・育成」、「交流・平和」をキーワードにオーケストラ活動を行うこととした。

そして、これまでの大阪府補助金による運営から、自立化、民営化に大きく舵を切ることを決意し、経営基盤の確立に向けて、オーナーの獲得の働きかけや賛助会員の拡大、更には、依頼演奏や録音・放送等事業収入や国・民間・団体からの助成の確保に取り組んできたところである。

この方針のもと、平成22年9月、当財団・大阪センチュリー交響楽団は、大阪に軸足を置きながら、より豊かな響きを全国各地に届けるために、公益法人制度の改正を踏まえ、寄附等についての税法上の優遇措置がある公益財団法人への移行、再出発を図ることを決定した。

財団の基本財産については、大阪府の了承のもと、新法人の経営の基盤が確立するまでの演奏活動や楽団運営に活用する道が見ついた。

平成23年3月31日をもって当財団は解散、4月1日公益財団法人日本センチュリー交響楽団に移行した。

新楽団発足に向けた準備作業として、ロゴマークの公募、広報物の作成、ホームページの刷新並びに内部諸規程の整備等を行った。

更に、金融機関と提携した遺贈パンフレットの作成など新たな民間支援を仰ぐ仕組みづくりを行ってきた。

この移行により新法人は、大阪府の出資法人のうち「自立化法人」と位置づけされることから、府からの人的関与及び財政的関与を受けることなく事業を展開することが可能となった。

<移行経緯>

平成21年12月7日	21年12月臨時評議員会
	21年12月臨時理事会
	自立化、民営化方針を決定
平成22年9月22日	22年9月臨時理事会

平成22年9月24日	22年9月臨時評議員会 公益財団法人日本センチュリー交響楽団への移行方針を決定。
平成22年9月27日	理事長、知事訪問。 移行方針を報告、了承される。
平成22年10月20日	評議員選定委員会が、最初の評議員を選任。
平成22年11月26日	22年11月臨時評議員会
平成22年12月1日	22年12月臨時理事会 定款、最初の役員、新年度事業計画、予算等を決定
平成22年12月7日	内閣総理大臣に、公益認定移行申請書を提出
平成23年3月19日	内閣府認定等委員会が、内閣総理大臣に答申 「認定の基準に適合すると認めるのが相当」
平成23年3月24日	23年3月定例評議員会 23年3月定例理事会 移行手続き経過報告
平成23年4月1日	内閣総理大臣から、「認定通知書」が交付される(23日付) 大阪法務局に登記 公益財団法人日本センチュリー交響楽団の設立及び 財団法人大阪府文化振興財団の解散

2. 財団の運営

(1) 機関の運営

○ 理事会の開催

23年度からの民営化、自立化に向けての資金援助の獲得方策及び法人改革にともなう公益財団法人への移行についての審議、並びに評議員の選任をおこなった。

定例理事会(2回) 平成22年6月28日、平成22年3月29日

臨時理事会(3回) 平成22年9月22日、平成22年12月1日

○ 評議員会の開催

楽団の運営について、専門的見地から提言、指導を行うとともに、公益財団法人への移行についての審議をおこなった。

定例評議員会(2回) 平成22年6月28日、平成22年3月24日

臨時評議員会(2回) 平成22年9月24日、平成22年11月26日

○ 記者会見

2011年度の主催演奏会の発表を行うとともに、関心が高まってきた楽団の将来方向についての進捗状況を報告した。

平成22年6月28日 オーナー、スポンサーの獲得について

理事長 (センチュリー・オーケストラハウス)

平成22年9月22日 日本センチュリー交響楽団への移行について

理事長 (センチュリー・オーケストラハウス)

平成22年9月27日 財団の基本方針について報告、意見交換
大阪府知事・理事長（大阪府知事室）

平成22年9月28日 2011年度の主催演奏会について
音楽監督・首席客演指揮者・理事長（ホテルグランヴィア）

(2) 事務局運営

事務局長の下、事業課・総務課の2課制を敷き、事業課においては、平成22年4月民間資金の拡充のための選任スタッフ、9月アシスタント・ステージ・マネージャー、23年3月チケット担当を採用した。平成23年3月をもって、事業課長、チケット担当が退団した。

総務課においては、給与事務の一部外部委託や事務手続きの簡素化を図ることにより前年度につづき1名減員を図った。

(3) 楽団組織運営

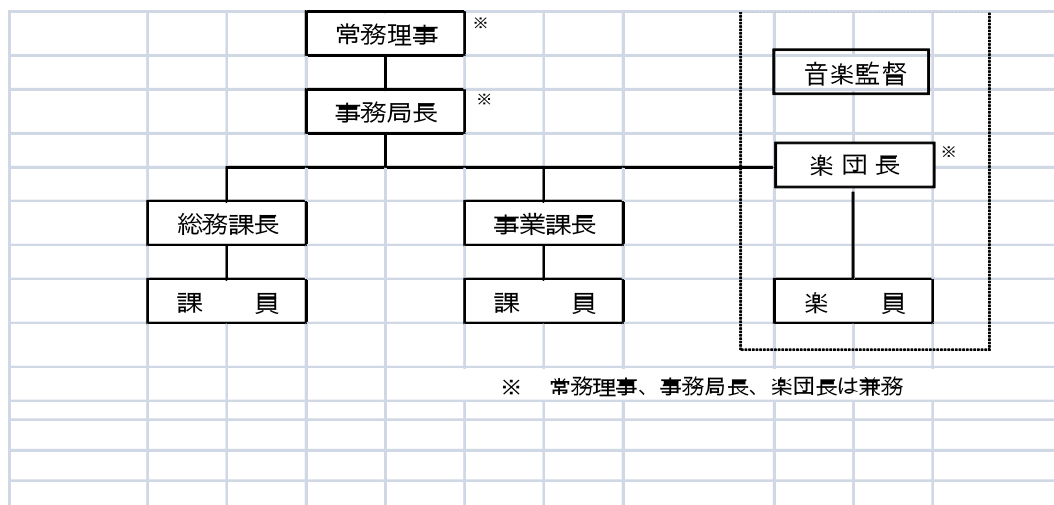
音楽監督・小泉和裕の下、演奏水準の維持のため楽員オーディションを実施し、平成22年9月次席ヴィオラ奏者増永雄記、トランペット奏者稲垣路子、10月フルート奏者永江真由子を採用した。

平成22年4月次席バイオリン奏者杉江洋子、12月バイオリン奏者尾崎佳苗、23年3月チェロ奏者綿貫直美が退団した。

創設メンバーの首席コントラバス奏者・奥田一夫が、平成22年9月12日不慮の事故により逝去した。楽団では、「名誉楽員」としてこれまでの活躍を讃えることとした。

○ 組織図(平成23年3月31日)

役員：15名（理事13名、監事2名）
評議員：11名
事務局職員：17名（プロパー4名、契約職員8名、再任用職員1名、民間派遣職員3名、嘱託員1名）
楽員：46名



(4) 財団財産の管理と運営

基本財産及び特定資産等の資産については、安全確実な方法により管理、運営に努めた。

特定資産の特定事業積立資産及び減価償却引当資産については、一般資金に充当するとともに、

退職給付引当資産は職員プロパー制度の廃止に伴い取り崩し、プロパー職員4名に給付した。

基本財産20億円は、公益財団法人日本センチュリー交響楽団の特定資産「管弦楽振興積立資産」に、西田房子記念基金積立資産2億円は、特定資産「西田房子記念基金積立資産」として活用することとなった。

会計運営については、公益財団法人への移行を図るため、内閣府の定める平成20年公益法人会計改正基準を導入した。

3. 大阪センチュリー交響楽団の活動

平成21年12月策定の《新しい発展を目指して—20周年を迎えての新たな決意》のもとに、「大阪力・発信」、「感動・癒し」、「発掘・育成」、「交流・平和」をキーワードにオーケストラ活動を行うこととし、年間119回の演奏活動をはじめワークショップの実施やセンチュリー・ユースオーケストラの運営等を行った。

《楽団組織》

音楽監督	小泉和裕
首席客演指揮者	沼尻竜典
名誉指揮者	ウリエル・セガル
コンサートマスター	後藤龍伸
編成	2管10型（楽員定数 56名 現員46名）

大阪力・発信

定期演奏会を中心に、京都特別演奏会や依頼公演において、芸術性の高い演奏を提供して、「大阪」の発信を行った。

（ア）定期演奏会

ザ・シンフォニーホールにて、年10回開催（第150回～159回）。

小泉音楽監督が4回、沼尻首席客演指揮者が2回、外国人指揮者が4回登場した。

レパートリーの拡大を目指し、新たに20世紀作曲家の大作に取り組んだ。

（イ）びわ湖定期公演 Vol. 1

今後の広域的活動の布石として、びわ湖ホールでの定期公演を沼尻竜典首席客演指揮者の指揮により開催した。

日時 平成22年8月28日（日） 15時

会場 滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール 大ホール

指揮 沼尻 竜典（首席客演指揮者）

独奏 ニュウニュウ

曲目 芥川也寸志：弦楽のための3楽章

ショパン：ピアノ協奏曲第1番

ブラームス：交響曲第4番

(ウ) 京都特別演奏会

平成 16 年度から公演。チケットは完売となり定着した。

日 時 平成 23 年 1 月 16 日(日) 15 時
会 場 京都コンサートホール
指 揮 小泉 和裕(音楽監督)
独 奏 小山 実椎恵
曲 目 ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第 2 番
チャイコフスキー：交響曲第 6 番

(エ) 依頼演奏

オペラ「トリスタンとイゾルデ」(びわ湖ホール)をはじめ、「のだめカンタービレの音楽会」(兵庫芸術文化センター、堺市民会館)、「京丹後/第 9」(京都府丹後文化会館)、「NHK/あなたの街で夢コンサート」(八日市文化芸術会館)、「郡山市ふれあいコンサート」(郡山市民文化センター)、「シンフォニクス・ポップス」(梅田芸術劇場)など 55 公演を行った。

公演実績

区 分	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	22→21	
① 自主公演	44	52	50	47	△3	
	フルオーケストラ	38	46	42	36	△6
	アンサンブル	6	6	8	11	+3
② 依頼公演	70	73	67	72	+5	
	フルオーケストラ	64	60	55	55	—
	アンサンブル	6	13	12	17	+5
総公演数 (①+②)	114	125	117	119	+2	

(オ) CDの制作・販売

「大阪センチュリー交響楽団創立 20 周年記念

小泉和裕 ブルックナー交響曲第 4・5・6 番」

「メンデルスゾーン交響曲第 2 番 (神を讃える歌)」 指揮 沼尻竜典

感動・癒し

オーケストラの社会貢献として、高齢者やふだん演奏会に馴染みのない方に本物の音楽による感動体験で癒しを提供した。

(ア) 特別演奏会「美しい日本のうた」

日 時 平成 22 年 4 月 20 日 (火) 19 時

会 場 NHK 大阪ホール

指 揮 岩村 力

司会と朗読 壇 ふみ

曲 目 遠くへ行きたい/琵琶湖周航の歌/荒城の月他

(イ) 特別支援学校の児童・生徒を対象とした音楽鑑賞機会の提供

平成 23 年 1 月 19 日、国際障害者交流センター（ビック・アイ）に、府立特別支援学校 10 校（藤井寺支援学校、堺聴覚支援学校、吹田支援学校鳥飼校、視覚支援学校、佐野支援学校、和泉支援学校、富田林支援学校、守口支援学校、岸和田支援学校、泉北高等支援学校）の児童・生徒 951 名を招き、オーケストラによる音楽を体全体で感じてもらう機会を提供した。

新たに、各支援学校に出向きアンサンブル演奏を行った。

《アンサンブル》（新規）

平成 22 年 5 月 20 日（木）、21 日（金）

羽曳野支援学校、交野支援学校（20 日）藤井寺支援学校、中津支援学校（21 日）

(ウ) 病院コンサート

病院に入院、通院されている患者やその家族に、音楽演奏による心の安らぎを提供するため、府立病院のロビー等でアンサンブル演奏会を行った。

平成 22 年 5 月 18 日（火）、19 日（水）

成人病センター、母子保健総合医療センター（18 日）精神医療センター、急性期・総合医療センター、呼吸器・アレルギー医療センター（19 日）

(エ) 星空ファミリーコンサート（「西田房子記念基金積立資産」活用）

夏休み最終の土曜日・日曜日の 2 日間、楽団の拠点で、音楽クイズや指揮者コーナーなど参加型のコンサートとして、また青少年によるアマチュア・オーケストラ「センチュリー・ユースオーケストラ」の共演も盛り込んだ無料コンサートを開催した。

日 時 平成 22 年 8 月 28 日（土）、29 日（日）19 時 30 分

会 場 服部緑地野外音楽堂

指 揮 小田野 宏之

司 会 どい かつえ

(オ) リハーサル公開

定期会員・ファンクラブをはじめ、音楽ファンにオーケストラへの興味を深めていただくため、センチュリー・オーケストラハウスや演奏会場での練習風景を公開した。

平成 22 年 5 月 10 日	ジパング倶楽部
平成 22 年 7 月 14 日	定期会員
平成 22 年 7 月 15 日	朝日カルチャー会員
平成 22 年 11 月 18 日	宝塚教養大学
平成 23 年 2 月 9 日	ファンクラブ会員

発掘・育成

児童、生徒、青少年に生の音楽演奏の鑑賞や、体験や参加の機会を提供することを通じて音楽の力による健全な育成に寄与するとともに、次世代の音楽文化を育み、才能をもつ若手を発掘して、世界に誇る音楽家を送り出すための取り組みを行った。

(ア) 「オーケストラの日」コンサート

オーケストラを身近に感じ親しんでいただくため、「オーケストラの日*」に、小泉和裕音楽監督の曲目解説、指揮で演奏した。

日 時	平成 23 年 3 月 31 日 (木)	14 時
会 場	いずみホール	
指 揮	小泉 和裕	
曲 目	ベートーヴェン：交響曲第 6 番「田園」第 1 楽章他	

* 社団法人日本オーケストラ連盟では、3 月 31 日（ミミにいちばんミミにいいひ！）をオーケストラの日」と定め、全国の加盟オーケストラがそれぞれの地域で様々なイベントを開催した。

(イ) 文化庁「子どものための優れた舞台芸術体験事業」公演

子どもたちに音楽鑑賞だけでなく、事前の実演指導やワークショップや本番の舞台で子どもたちと共演することにより、本物の舞台芸術を体験させる公演活動を行った。

平成 22 年 9 月 21 日、22 日	2 公演
平成 22 年 11 月 1 日、2 日、4 日、5 日	4 公演
平成 22 年 11 月 29 日、30 日、12 月 1 日、2 日、3 日	5 公演
平成 23 年 2 月 15 日、16 日、17 日	3 公演
新潟県小千谷市立片貝中学校はじめ 14 小・中学校	

《ワークショップ》

平成 22 年 6 月 21 日、22 日、28 日、29 日、30 日、7 月 1 日、2 日、5 日、6 日、7 日、8 日、10 月 4 日、平成 23 年 1 月 12 日、13 日

(ウ) 教育プログラム「タッチ・ジ・オーケストラ」

センチュリー・オーケストラ・ハウスで、小学生を対象に、演奏を聴くだけでなく、楽器に触れて音を出すなど、文字どおりオーケストラを体感するコンサートを開催した。

平成 22 年 5 月 31 日、6 月 1 日、2 日、3 日、4 日 10 公演

平成 22 年 11 月 24 日、25 日、26 日 6 公演

20 校 1812 人

(エ) 「センチュリー・ユースオーケストラ」の指導、育成

財団法人関西テレビ青少年育成事業団と連携して平成 19 年に創設した「センチュリー・ユースオーケストラ」は、創立からの指揮者小田野宏之氏と楽員の指導のもと、定期演奏会を開催するとともに、大阪センチュリー交響楽団との合同演奏を行った。

○ 「星空ファミリーコンサート」(共演：大阪センチュリー交響楽団)

日 時 平成 22 年 8 月 28 日、29 日

会 場 服部緑地野外音楽堂

指 揮 小田野 宏之

曲 目 メンデルスゾーン 「真夏の夜の夢」～夜想曲、結婚行進曲

リムスキー・コルサコフ 交響組曲「シェヘラザード」(共演)

○ 第 3 回定期演奏会

日 時 平成 23 年 3 月 26 日(土) 16 時

会 場 いずみホール

指 揮 小田野 宏之

曲 目 リスト 交響詩「レ・プレリュード」

ドリーヴ バレエ組曲「シルヴィア」

ブラームス 交響曲第 2 番ニ長調作品 73

(オ) 「おとなのためのヴァイオリン教室」

楽員OGによる定期会員、ファンクラブ加入者のための習熟別個人レッスンを、5 人を対象に 64 回実施した。

(カ) インターシップ生、中学生職業体験の受け入れ

○ NPO 法人大学コンソーシアム大阪及び大阪音楽大学、大阪芸術大学からインターンシップ生 14 名を、平成 22 年 8 月 26 日～9 月 4 日及び平成 23 年 3 月 3 日～24 日に受け入れ、オーケストラの舞台づくりやライブラリアン業務等の現場体験、レクチャーを行った。

○ 松江第 3 中学校(島根県) 5 名をはじめ 5 校 15 名の中学生を受け入れ、舞台設営や広報の手伝い等、オーケストラ運営を体験してもらった。

(キ)「ドネーション・シート」の提供（新規）

支援者から定期演奏会指定席の提供を受け、音楽家を目指す高校生に、オーケストラ観賞の機会を提供した。シートの拡大を目指し、支援者を広く募ることとした。

対 象 府立夕陽丘高校音楽科生徒

規 模 定期演奏会（150回～159回）10公演。各2席

支援者 1名

交流・平和

「世界共通言語」である音楽を通じ、音楽大使として国際相互理解や平和の構築に貢献のため、上海万博の開催期に公演を行った。日本から唯一のオーケストラ公演として反響を呼び、満席となった。

更に、東北地方太平洋沖地震で被害に遭った地域の支援・復興の一助となるよう仙台フィルハーモニー管弦楽団が計画する「復興コンサート」のための募金活動に取り組んだ。

(ア) 上海公演

日 時 平成22年7月29日（木）19時30分

会 場 中国・上海オリエンタル・アート・センター（東方芸術中心）コンサートホール

指 揮 沼尻 竜典（首席客演指揮者）

独 奏 ニュウニュウ

曲 目 芥川也寸志：弦楽のための3楽章

ショパン：ピアノ協奏曲第1番

ドヴォルザーク：交響曲第9番「新世界より」

(イ) 仙台フィルハーモニー管弦楽団「復興コンサート」支援活動

159回定期演奏会、「オーケストラの日」コンサートを中心に募金活動を行い、876,760円の寄付を仰いだ。

オーケストラハウスの管理

大阪府から貸借し、大阪センチュリー交響楽団の練習場、財団事務所として使用するオーケストラハウスについては、音楽情報の提供を行う「音楽サロン」として府民の利用に供した。